

【2022 年度/専門科目領域/専門科目群/人間コミュニケーション学科・福祉心理学科】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅲ		(精) 必修 (社.発) 選択	2	3	前期
担当教員	研究室	電子メール ID		オフィスアワー	
森屋 直樹	講師控室	kyoumu		授業時間の後	
授業の目的・概要	<p><目的> 精神保健福祉士の援助技術に関する理論と実践について理解し、個別支援から始まるソーシャルワーク実践の理解を深め、説明できるようになることを目的とする。</p> <p><概要> 授業はテキストを中心に、地域移行支援や精神保健福祉士の援助技術の展開プロセスを詳述する。援助技術をその歴史的背景や実践報告などを交えながら理解を促していく。具体的な事例を PBL、ディスカッション・ディベート、グループワークを用い理解を深める。</p>				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学习) <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実技 <input checked="" type="checkbox"/> PBL <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク				
学習上の助言	精神保健福祉に関する他の専門科目との重複部分が多い。総合的な理解をしてほしい。				
教科書	新・精神保健福祉士養成講座 5 第 2 版 精神保健福祉の理論と相談援助の展開 II /編:日本精神保健福祉士養成校協会編/中央法規出版				
参考書	特になし。				
外部教材	特になし。				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	精神保健福祉士の援助技術について理解し、説明できる。			WP(5)、(6)	
②	地域移行支援に伴う関係職種、関係機関、具体的援助展開を理解し、説明できる。			WP(2)、(3)	
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	授業オリエンテーション、授業概要を説明する。	講義	教科書を読み、用語を調べる。	4	
2	個別支援の実際について学習する。	講義	教科書を読み、用語を調べる。	4	
3	集団を活用した支援の実際について学習する。	講義 グループワーク	教科書を読み、用語を調べる。	4	
4	相談援助の検討について学習する	講義	教科書を読み、用語を調べる。	4	
5	精神障害者と家族の関係について学習する。	講義	教科書を読み、用語を調べる。	4	
6	家族支援の方法について学習する。	講義	教科書を読み、用語を調べる。	4	
7	地域移行支援の対象について学習する。	講義 PBL	教科書を読み、用語を調べる。	4	
8	地域移行の体制について学習する。	講義	教科書を読み、用語を調べる。	4	
9	他職種との連携について学習する。	講義	教科書を読み、用語を調べる。	4	
10	地域移行に係る組織・機関について学習する。	講義 PBL	教科書を読み、用語を調べる。	4	
11	精神障害者を取り巻く社会的状況について学習する。	講義 ディスカッション	教科書を読み、用語を調べる。	4	
12	地域相談援助の主体について学習する。	講義	教科書を読み、用語を調べる。	4	
13	地域相談援助の対象について学習する。	講義	教科書を読み、用語を調べる。	4	
14	地域相談援助の体制について学習する。	講義	教科書を読み、用語を調べる。	4	
15	全体の復習を行う。	講義	教科書を読み、用語を調べる。	4	
試	定期試験 達成度評価・評価のポイント参照				

【2022 年度/専門科目領域/専門科目群/人間コミュニケーション学科・福祉心理学科】

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計	
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他		
		80	20	0	0	0	100	
総合力指標	知識・技術力	60	10	0	0	0	70	
	思考・推論・創造する力	20	10	0	0	0	30	
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0	
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0	
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0	
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0	
問題を発見・解決する力		0	0	0	0	0	0	
評価のポイント						フィードバックの方法		
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点						
試験	①	✓	毎回の講義毎にリアクションペーパーを利用した理解度チェックを行う。リアクションペーパーは評価の対象としない。授業の理解が進むよう毎回講義内でフィードバックを行う。また、試験に必要なポイントについても説明する。 定期試験は筆記試験で実施し、評価割合を 80%とする。				試験結果を掲示する。	
	②	✓						
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
レポート	①	✓	数回に分けてレポートを課す。レポートの評価割合は 20%とする。				レポートを採点后返却する。	
	②	✓						
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
成果発表	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
ポートフォリオ	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
その他	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
備 考								
他 担 当 教 員								
教員の実務経験		精神保健福祉士取得後、22年の実務経験を有する。						
実践的授業の内容		あらゆるフィールドで実践する精神保健福祉士が求められる援助技術について、現場での具体的事例を基に意見交換し理解を深めていく。						
そ の 他		今後の新型コロナウイルス感染症の社会情勢によって再度シラバスの変更が行われることもある。 精神保健福祉士取得希望者は必ず履修すること。						